



ふなきやま そくりょうちょうさげんちせつめいかいしりょう
船来山64号墳測量調査現地説明会資料

平成29年8月11日
本巢市教育委員会社会教育課

1 船来山古墳群について

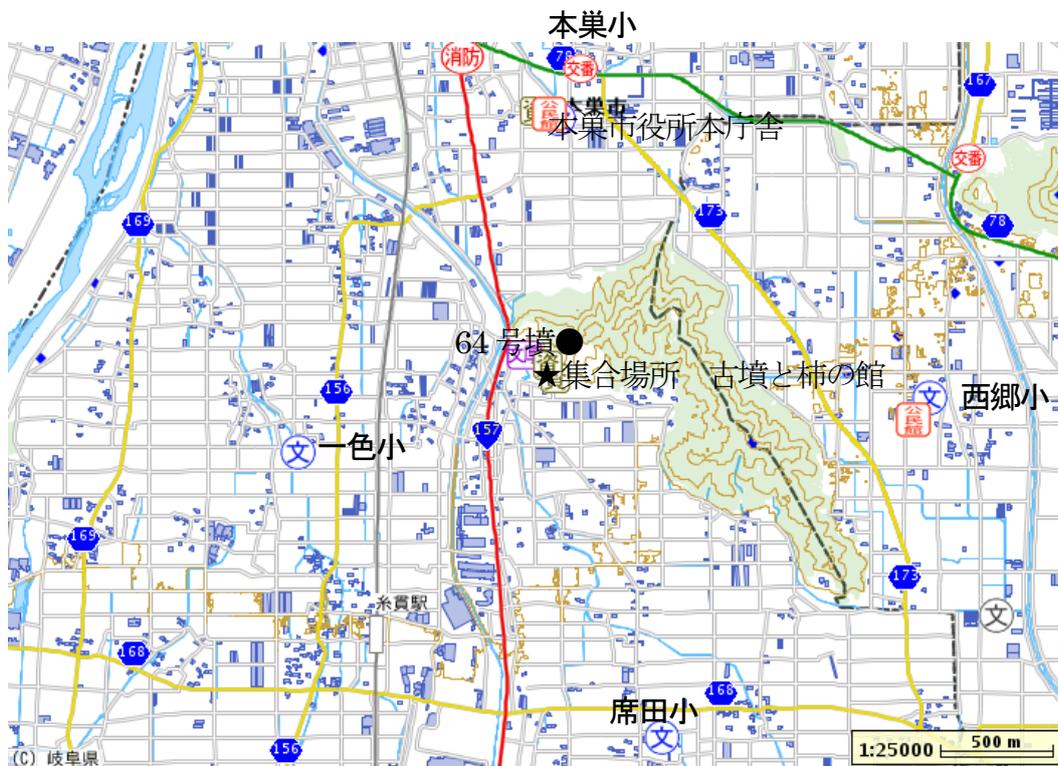
船来山古墳群は、現在までに、約290基が確認されている群集墳です。古墳の数では、岐阜県内でも第1位を誇り、全国の中でも大阪府平尾山古墳群ひらおやま（約1407基）、和歌山県岩橋千塚古墳群いわせせんづか（約850基）、奈良県巨勢山古墳群こせやま（約771基）、新沢千塚古墳群にいざわせんづか（約600基）などに続き、第5位になります。

船来山でのこうした群集墳は、6世紀から7世紀にかけてつくられていることが発掘調査により明らかになっていますが、それよりも前の時代に造られた古墳については、詳しいことがあまり知られていないのが現状です。そこで今回の測量調査では、昨年度に続き前方後円墳を中心に調査を行い、専門家による検討委員会の指導を仰ぎながら、古墳群としての歴史的价值をさらに高め、古墳群の保護を図っていきたいと考えております。

2 今回測量した船来山64号墳について

今回測量調査を実施した船来山64号墳は、船来山富有柿の里遊歩道より東へ進んだ、標高約104.2mの場所に立地する古墳です。普段は立ち入り禁止の地域です。

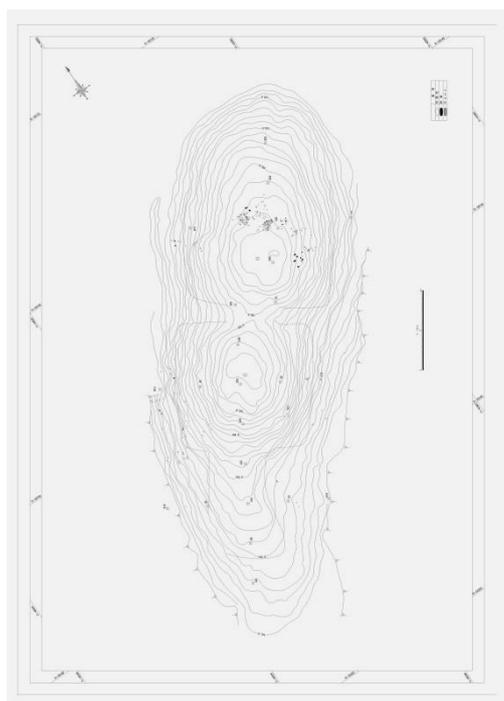
地図



今回も、岐阜県立岐阜農林高等学校のご協力をいただき、環境科学科の先生と生徒、市民の方々と協働で行いました。

3 船来山 64 号墳について

船来山 64 号墳は、今回の測量調査によって全長約 25m の前方後方墳である可能性が高くなりました。前方後円墳である可能性も捨てきれませんが、64 号墳の立地する船来山「西群墓域」は 62 号墳、76 号墳をはじめとして前方後方墳の可能性が極めて高いと判明した古墳が分布する地域です（本巣市教育委員会 2017 「本巣市船来山古墳群総括報告書」）。船来山の西側の尾根上は方墳を基調とする前期古墳でまとまる可能性が出てきました。今回は明確な葺石を見つけることはできませんでしたが、後方部西側墳丘で壺型土器の可能性が高い土器片が表採出来ました。

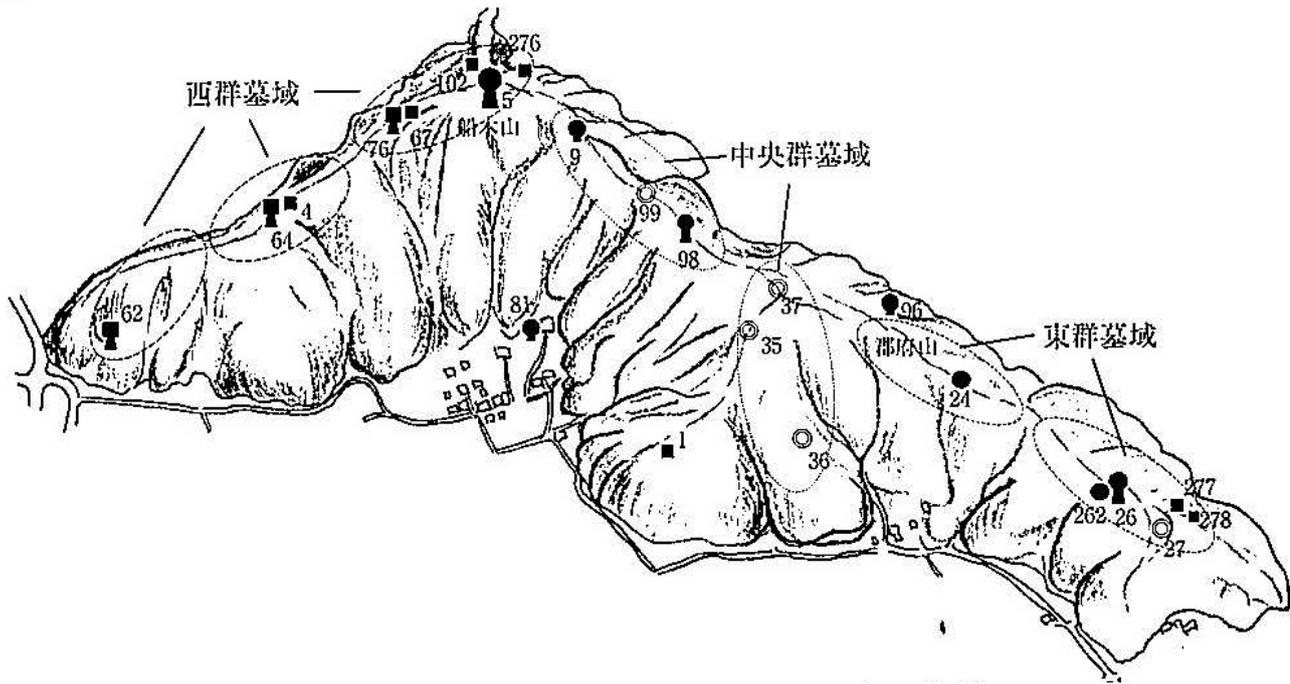


左：67号墳・76号墳

4 近隣の船来山 67 号墳・76 号墳について

船来山 64 号墳より東へ約 200m の場所にある船来山 67 号墳は、2 年前の平成 27 年度の調査によって約 24m×約 17m の長方形に近い方墳である可能性が高いことが分かりました。64 号墳の東隣の船来山 76 号墳は全長約 30m の古墳であり、低い前方部をもつ前方後方墳の可能性が高いことが分かりました。前方部と後方部の比高差は 2.6m あり、古墳としては古い要素

を示しています。76号墳の後方部には川原石の葺石も残されていました。墳丘の形状や前方部との比高差を考慮すると、古墳時代前期（4世紀）の築造と考えられます。



本巢市教育委員会 2017「本巢市船来山古墳群総括報告書」より転載

5 船来山 64号墳の時期と3号墳・4号墳との関係について

滋賀県米原市定納古墳群（旧近江町）は船来山古墳群と同じように尾根上に連綿と築かれた古墳です。定納1号墳は前方後円墳の可能性もありましたが、発掘調査によって全長約21mの前方後方墳と確かめられました。また隣の6号墳は掘割を持つ方墳と確かめられました。前方後方墳と掘割を持つ方墳がセットとなる良い事例です。掘割は船来山67号墳でも確認されており、方墳の67号墳と前方後方墳76号墳とがセットである可能性も高くなりました。定納1号墳の時期は、発掘調査の際筒型銅製品が出土したことから前期後半以降（4世紀後半）と位置付けられています。船来山64号墳の隣にも南に3号墳、北東へ4号墳が築かれており、64号墳とセットとなるのかどうか新たな課題が出てきました。

まとめ

正確な墳形は発掘調査をしないと分かりませんが、船来山古墳群でも「西群墓域」では発掘調査が出来れば正式に前方後方墳であることが確かめられる可能性が出てきました。こうした前方後方墳や方墳が卓越する古墳群としては、近隣の揖斐川町白石古墳群しらいし、養老町象鼻山ぞうびざん

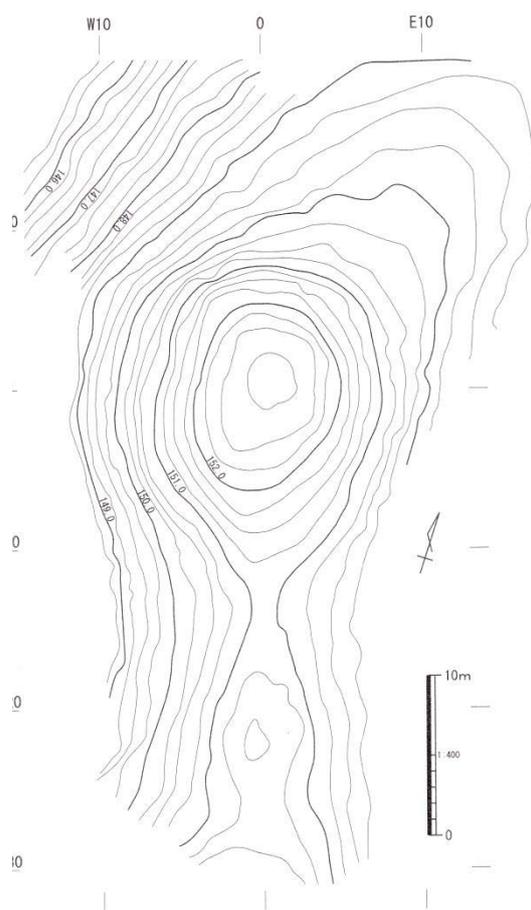


図7 定納1・6・2号墳の地形図

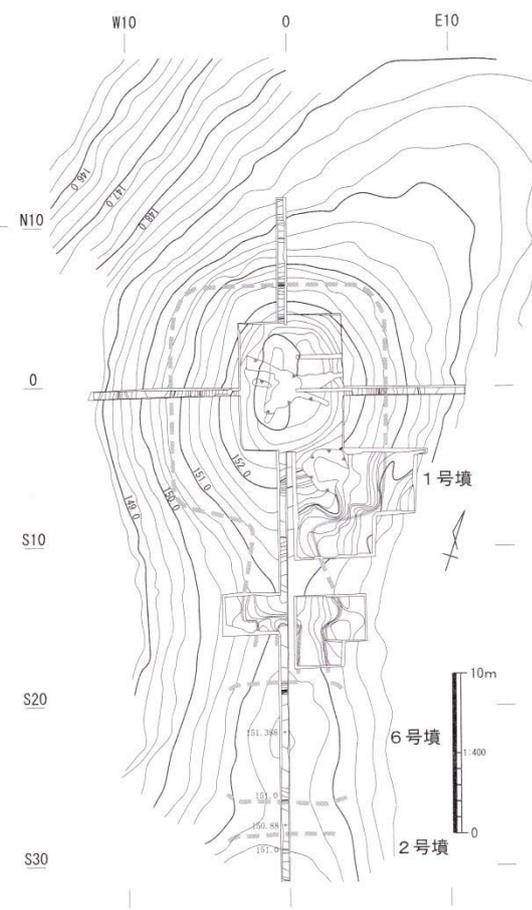


図8 定納1・6号墳の墳丘・各調査区平面図

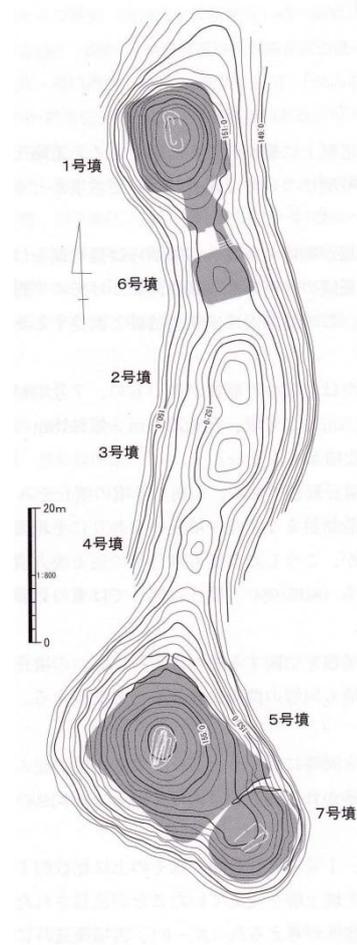


図52 定納古墳群復元想定図

近江町教育委員会・大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター 2005「定納古墳群」
近江町文化財調査報告書第28集より転載

古墳群に類例があり、方墳の時代から船来山5号墳（全長約65m、平成26年度調査）のような前方後円墳の時代へと前期後半（4世紀後半）にかけて変わる可能性も出てきました。過去に調査された24号墳や27号墳などの「東群墓域」の古墳は、円墳や前方後円墳と報告されています。同じ船来山の中でなぜ東西で墳形の異なる前期古墳が形成されるのか、標高約115m（三角点付近）に立地する全長約65mの首長墓5号墳（前方後円墳）が登場する背景は何かなど、これまで船来山古墳群を特徴づけた横穴式石室にみる後期・終末期古墳の築造前の様子が少しずつ明らかになってきました。今回は64号墳のみの測量調査でしたが、隣にある3号墳、4号墳との関係も調査が待たれるところです。